

群 教 セ	G15 - 01
	令 5.283集
	高-キャリア

# 令和5年度長期社会体験研修報告書

## 研修先：株式会社クライム

長期社会体験研修員 齋藤 早永

### I 研修内容

#### 1 研修先の概要

株式会社クライムは、1989年4月に有限会社クライムとして設立された。1995年8月に株式会社クライム（以下、クライム）に組織変更し、2022年6月に本社を前橋市へ移転した。東京・大阪・名古屋にも事業所を展開し、従業員の幸福を最大の目的とした企業理念を掲げ、ICTを通して人々の生活と社会を便利にし、世界中の全ての人を幸福にすることを使命としている。

主な事業内容は、「システム開発事業」「インフラ事業」「プロダクト事業」の三つである。設計、構築及び運用・保守の各工程を手掛け、高度な技術により最適なシステムを提供している。金融・通信・公共分野など様々な業種におけるシステムサービスを提供する企業である。

#### 2 研修先での主な研修内容

##### (1) 新入社員研修【4月～6月】（研修場所：群馬事業所、自宅）

4月3日の群馬事業所での入社式後、新入社員研修で使用する教材やソフトのインストールなど、貸与されたパソコンの環境構築を行った。その後、3か月間は新入社員と同様にオンラインによる研修（基本は在宅勤務）を受講した。Web会議システムを使用して、システムエンジニア（以下、SE）として必要なITの基礎知識や、各種プログラミングの技術を座学及び実習形式で学んだ。毎日実施する試験により、知識や技術の習得状況を確認することができた。新入社員研修の最終日にはチームで開発したWebアプリケーション（ECサイト：電子商取引サイト）について成果報告会を行った。

##### (2) システム動作環境調査【7月～9月】（研修場所：群馬事業所）

開発したシステムを動作させるために必要なサーバの環境構築の調査を行った。具体的には社内のパソコンに実際のシステムと同様な環境を整備し、システム実行時に問題がないかなどの確認を行った。サーバOSのインストール作業から、Webサーバやデータベースサーバの設定まで行い、開発したシステムが実際に動作するまでの仕組みを理解することができた。

##### (3) システム開発補助【10月～3月】（研修場所：群馬事業所）

システム開発の製造やテスト業務に携わった。具体的な業務は、指定されたとおりのデータをシステム上に表示させるためのコーディング、データベースの設計・構築、開発したシステムのテストを行った。

システムの使いやすさだけでなく、一緒に開発に携わる人の生産性を下げないように配慮しながら開発を進めることへの難しさを感じた。

#### 3 キャリア教育実践

##### (1) キャリア教育について

企業での研修や業務を通して、SEの仕事に対する姿勢を学んだ。また、高い専門性や顧客の要望に対する臨機応変な対応力、期日までに業務を処理する計画性や顧客の要望に応え、チームでシステム開発を行う際に必要なコミュニケーション能力など、多くのスキルが必要であることが分かった。

本実践では、SEのこの仕事に対する姿勢を伝えることで、将来についての関心を高めるとともに、生徒自身が将来のために自発的に努力できるようなきっかけをつくることを目指した。

## (2) 実践の概要（県立太田工業高等学校）

### 授業実践

題材名 「職業別で考える資質・能力 ～将来を考えるきっかけづくり～」 （特別活動）

対象 電気情報科第2学年I組 39名

授業の前半では、異なる6職種の登場人物の中から一人を選択し、その登場人物が将来働くために必要な資質・能力について個人及びグループで考え、整理した内容を発表した。登場人物を具体的に提示することで、将来の夢や目標が明確でない生徒も演習に参加しやすいように工夫した。

授業の後半では、クライムの社員2名とオンラインで接続し、実際の業務について社員に説明していただいた。授業前半で行った個人及びグループでの演習と、社員の話を参考にした上で、授業のまとめとして「将来のために明日から取り組めること」を考え、クラスで共有した。

## II 研修成果

### 1 新入社員研修について

新入社員の育成をねらいとしたオンライン研修を受講することで、システム開発に関する基本的な知識を習得することができた。また実際にチームでシステム開発を行うことで、システム開発の工程を理解することができた。

本研修を通して、新入社員の教育に対する企業の意識の高さに驚き、社員を成長させる数多くの工夫を学ぶことができた。キャリア教育実践においても、新入社員研修中に毎日行ったスピーチと、フィードバックを取り入れることで、生徒が自信をもって発表できる環境を作ることができた。今後も研修中に学んだ工夫を学級経営や学校組織の活性化のために生かしていきたい。

### 2 システム開発に関する研修について

システム開発という業務は、想像していた以上に様々な配慮が必要であることが分かった。具体的には、共同で開発している人の生産性を上げるような工夫や、開発しているシステムが要件を満たしているかの確認などである。一人一人が責任をもって役割を果たすことで、システムの品質を担保していることを理解した。

これらの経験を生かし、学校の校務においてもチームで業務を行う際の生産性を意識し、効率よく計画的に業務を遂行し、学校現場の多忙化解消につながるように工夫をしていきたい。

### 3 キャリア教育実践について

本実践の将来必要な資質・能力を考える演習や、クライムの社員の方との交流を通して、多くの生徒の将来に対する関心を高めることができた。しかし、変容が見られなかった生徒も少数いたため、今後もキャリア教育を継続して行う必要があることを再確認することができた。また、積極的に企業と連携・協力し、実際に働いている方々の考えや思いを生徒に伝える機会を作ることによって、キャリア教育の取組を充実させていきたい。

## III まとめ

本研修を通して、「システム開発」というこれまで経験したことのない未知の世界を知ることができた。また、情報系の専門知識を深めることができたのはもちろん、顧客の要望に応えながら、計画的に業務を行うSEの知識や技術及び能力の高さを知ることもできた。そして、「システム開発」は、工業高校で学んでいる「ものづくり」に精通していることを改めて実感することができた。

本研修で学んだ知識や経験を生かし、応用的なプログラミングの授業、業務効率化のためのICTの活用などの新たな工夫を取り入れて、今後も学校現場の活性化に努めていきたい。

（担当指導主事 費田 秀樹）